

雄勝町大須における集落調査について

石巻市雄勝半島における地域の固有性・多様性に基づく集落再生に関する研究 その4

Survey of Osu Village, Ogatsu

Research on the colony reproduction based on the indiginity and diversity of the area in the Ishinomaki Ogatsu peninsula #4

○奥富大樹¹, 田中達也¹, 小島陽子², 落合正行³, 山中新太郎⁴, 佐藤光彦⁴*Daiki Okutomi¹, Tatsuya Tanaka¹, Yoko Kojima², Masayuki Ochiai³, Shintaro Yamanaka⁴, Mitsuhiko Sato⁴

1. はじめに

本稿は、東日本大震災復興を契機とした地域の固有性・多様性に応える地域再生と復興住宅等の建築設計に関する研究の一環として行われた雄勝町大須の集落調査の報告である。これまで、雄勝町の各浜において個々の民家に着目した調査を行ってきた^(注1)。

本調査では、震災で被害の少なかった大須集落に着目し、雄勝らしい住まいの知恵などを、住居の配置や通りに面した連続立面図などを通じて記録することで、雄勝の生活様式に合った地域再建計画やまちづくりルールなどの基礎資料を作ることを目的としている。

2. 集落調査について

調査は平成 25 年 9 月 9 日～11 日に行われ、日本大学、東京芸術大学、東北大学、立命館大学の 4 大学の合同で、延べ 22 名が参加した。大須集落の方々にご協力を頂き、各住戸の外側から建物の配置・屋根伏せ・縁側の向き(玄関の位置など)や外部施設(倉庫や納屋、駐車場など)、外構・植栽を調査シートにスケッチをし、実測すると共に調査台帳で屋根の材料など各戸の細かな特徴を記録した。また高低差のある大須集落の特徴を明らかにする為に、チルチングレベルを用いて、大須の港の基準点から約 500m あがった地点まで 72 点のレベルを測量し、メインストリート沿いの集落の連続立面を作成した。



図 1. 大須集落の位置

3. 大須集落の概要

大須は宮城県の雄勝半島(リアス式海岸の地形を持つ)の東端に位置している。集落は北東から南西方向に長く伸び、北東を海に開き、南西部は、雄勝半島の各地区を結ぶ県道 238 号線に接続する。19 世紀には捕鯨や廻船問屋として阿部家が台頭し、雄勝半島でも有力な集落となった⁽¹⁾。その為、メインストリート沿いの民家には阿部家が多く、漁業を生業として集落が成立した。集落の海岸部では雄勝石の擁壁が設けられ、民家は一段と高い位置にある。先の東日本大震災によって海岸から 2 棟は被害を受け、取り壊されたが、他は浸水したものの現在は修復をし、現在では約 270 軒の民家が見られる。

4. 大須の集落形態

4-1. 大須のメインストリート

大須集落の南端には、南西方向から北東方向に通りがあり、この通り沿いには商店や旅館、郵便局などがあり、集落のメインストリートを為している。昔、この通りは人が通れる程の幅であったが、昭和 40 年代に車両が通行可能な幅に拡張され(ヒアリングによる)、側を流れていた沢のほとんどが車交通の為に暗渠化された。この道路から垂直に枝分かれするように小道(坂や階段も含む)が接続し、それぞれの民家にアプローチできるようになっている。



図 2. 大須集落図

1: 日大理工・院(前)・建築 2: 日大理工・PD・建築 3: 日大理工・研究員・建築 4: 日大理工・教員・建築

また測量を行った結果、国土地理院で公表されている基準点の高さより約 1.4m 低いことがわかり、これは震災後に起きた地盤沈下(地元漁師からのヒアリングによる)によるものだと考えられる。港は満潮時には冠水してしまうことから、現在急ピッチで地盤面のかさ上げが行われている。

4-2. メインストリート沿いの民家について

図 3、図 4 はそれぞれ大須の海岸から約 350m に位置する民家周辺の配置図と連続立面図を示す。この場所では、明治 5 年に建てられた民家(ヒアリングによる)が 1 軒、板倉が 2 軒あり、調査を通して大須集落における民家の特徴を把握できると考えられる。

民家は基本的に南あるいは南東向きで、玄関や縁側が道路に開かれている民家が多く、特徴的な民家が幾つか見られる。

・増築している民家

増築部は基本的に母屋の東側に建てられている。これらの建物と前面道路の擁壁や隣地の建物で囲われた空間は、中庭として利用されており、そこでは、植栽が手入れされていたり、ガラスの浮玉をエクステリアとして利用している。また、メインストリートから直接入るのではなく、枝分かれした小道から中庭を介して、玄関にアプローチする民家が多い。メインストリートから離れた民家では中庭を通して隣の民家までアクセスできる民家が多く見られる。

・敷地高が道路高より低い民家

海岸から約 173m 離れると、メインストリートが敷地高より高くなる所が多く見られる。通りから見ると



図 3. 大須集落の配置図



図 4. 大須集落の連続立面図

敷地高と道路高の差によっては、埋もれているような民家がある。また、メインストリートに面した 2 階部分に玄関を設けている民家がある。

・板倉がある民家

敷地の南側に板倉を配し、母屋を北側に配している民家が見られる。板倉と母屋の間には大きな庭を設けている。

・駐車場を置く民家

駐車場が敷地の南側に位置し、母屋が北側に位置しているので、メインストリート沿いが大きく開かれている。

・スレート屋根の民家

スレート葺きの屋根の民家は通り沿いから 2 軒見られる。昔よりも数が減っており(ヒアリングによる)、今では瓦屋根の伝統的なつくりの民家の方が多い。

5. まとめ

本調査では、大須集落全戸の調査を行ったが、紙面の都合上、本稿では一部の配置形態や立面形態しか取り上げることができなかった。その中で、集落の特徴について明らかになったことを以下に示す。

多くの民家は沢の北側に位置し、南側に玄関を向けている。また東側に増築をすることで、中庭を設けるような形式をとり、東側から民家にアクセスする。これは大須における生活様式と風土が大きく関連していると考えられる。

今後の研究を続けることによって大須集落についてより深い固有性や多様性を発見できるのではないかな。

本研究は、日本大学理工学プロジェクト「東日本大震災復興を契機とした地域の固有性・多様性に応える地域再生と復興住宅等の建築設計に関する研究～宮城県石巻市雄勝町を対象として～」を基に行っている。

参考文献

- [1] 河村哲二 岡本哲志 吉野馨子『「3.11」からの再生 三陸の港町・漁村の価値と可能性』御茶の水書房
(2013/5/2)第 1 版第 1 刷発行
(注 1) 佐藤太輝『雄勝半島の伝統的な集落・民家の調査-石巻市雄勝半島における地域の固有性・多様性に基づく集落再生に関する研究 その 1-』
佐藤光彦『船越・名振り・波板地区における高台移転計画-石巻市雄勝半島における地域の固有性・多様性に基づく集落再生に関する研究 その 2-』
山中新太郎『高台移転計画実施案までのプロセス-石巻市雄勝半島における地域の固有性・多様性に基づく集落再生に関する研究 その 3-』